

ヒューマン・マシン・システム研究部会セッション

再稼働に向けてヒューマン・マシン・システム研究部会に何ができるか？

Role of HMS research division for resumption of nuclear power plant operations

(2) 原子力発電所におけるリスクマネジメントの取り組み
(エラーの未然防止に向けて)

(2) Efforts for risk management for proactive prevention of error

*小笠原 和徳¹¹ 東北電力株式会社

1. エラーの未然防止に関する取り組みの経緯

当社は、2003年に品質マネジメントシステムを構築して以降、品質保証総点検等の過去の不適切事例の経験を踏まえ、継続的に業務品質の向上を図ってきた。近年では、「現場力向上」をスローガンとして、作業に潜むリスクを事前に洗い出し対策をとる「リスク想定」の活動や、作業を行うにあたって期待される振る舞いである「基本行動」を根付かせる活動を実施することにより、ヒューマンエラーの低減を図ってきている。

このうち、「リスク想定」の活動にあたっては、2020年にリスクマネジメントプロセスを構築し、事前のリスク特定や対策検討等について体系的に実践している。

2. リスクマネジメントプロセスの概要

リスクマネジメントプロセスは、社内文書「統合リスク管理要領」に規定し、これに基づき、事前にリスクを特定・評価し、重要度のランク付けを行うとともに、対策をとり、リスクを低減してから作業等を実施するリスク管理活動を実施している。図1にリスクマネジメントプロセスの概要を示す。

このプロセスでは、活動の内容に変更が無い場合、再度の記録作成は不要とすることで、3H（初めて、変更、久しぶり）作業等に管理を注力できるよう配慮している。

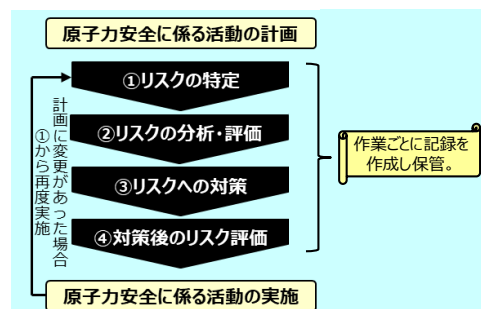


図1 リスクマネジメントプロセスの概要

3. リスクマネジメントプロセスの改善状況

半期毎に管理実績を振り返り、統計データの分析、実施例の妥当性確認、不適合事象からの教訓等をもとに、改善すべき課題を抽出し、プロセスの改善を行ってきている。例えば、リスクマネジメントプロセスの導入当初は、発電所間で、評価したリスクランクにバラつきが見られたことから、リスクマネジメント事例集を策定し、周知・教育を行う改善を実施した。これにより差異が収束傾向となっている。

4. まとめ

当社は、これまで、ヒューマンエラーの低減に向け、様々な取り組みを実施し、一定の成果が見られてきたものの、近年では、ヒューマンエラーの発生件数は横ばい傾向であり、さらなる低減に向けた取り組みが必要である。リスクマネジメントの実践は、エラーの未然防止に効果的であり、さらなるヒューマンエラーの低減に向け、リスクマネジメントプロセスが有効なものとなるよう、今後も継続的な改善を行っていく。

*Kazunori Ogasawara¹¹Tohoku Electric Power Co., Inc.